

刑法沿革誌

属罪之部

卷之十四

特別

73

954

11





門保 3  
號 954  
卷 17

同會  
印

刑法沿革志卷之十四

屬罪之部

刑法

特  
73  
954  
11



刑法沿革志卷之十四

屬罪之部

神職

伶人

能太夫

修驗

虛無僧

盲人座頭穢多非人

○神職

總則

○裁斷類集云。寺院社人修驗等。吟味心得方之事。都而入牢手鎖ハ。難相成云々。社人ハ。觸頭卜申。モ無之間。同職ノモノ。又ハ。村役人ハ。預テ申付。拾別ノ不届有之ハ。揚屋入申付。揚屋無之候ハ。



、牢内ヲ仕切。疊ヲ敷。揚屋ト名付。揚屋入可被  
申付候。但地方懸ニテ。吉田家配下。神職ノ者七  
日目裏書ヲ拒候一件有之。預ケ申付候例。差當  
不相見。都テ一人立罷出候モノ故。寺社方調役  
久須美六郎左工門へ。問合候處。寺社奉行ニテ  
ハ。法類并宮川彈正へモ。預ケ者不申付。心得ノ  
旨。文政七申年九月挨拶有之候。尤神職ハ。修驗  
ト違ヒ。時宜ニ寄町方家主へモ。預ケ候事ノ由。  
寺社方調役。芦澤九郎兵衛申聞候。是者觸頭等  
モ無之故也。但陰陽師觸頭。藪兵庫へハ。吟味ノ

モノ預ケ申付。與書モ為致候事。

○神職預ノ儀。吉田家出役。宮川彈正。御取締ノ夕  
ノ。在府致シ候上ニテ。奉行所ヨリ。為差出置候。  
譯ニハ。無之。觸頭同様ノ取扱ニハ。難致。夫故出  
席。并與書モ。サセ不申。然ル上ハ。彈正ハ。神職ノ  
モノ預ケ等ハ。容易ニ難為致筋ノ旨ニテ。揚屋  
入ハ。勝手ニ取計候ノ由。久須美六郎左工門申  
聞候。

○類例秘録云。富士淺間神職共。取扱ノ儀。伺書面  
師職村役兼帶致候上ハ。吟味筋有之節。村役ニ



付一條候ハ、白洲へ引出師職ニ拘リ候筋  
之儀ハ板縁へ出ニ吟味為致。回村役人之場合  
ニテ不埒有之節ハ右始末次第吟味中手鎖可  
申付候而ハ不苦儀ト可被心得候。文政二年三月  
○新張紙云。天保五年正月十四日連。同月廿一  
日。挨拶下け札致し來り。

曾我豊後守及  
間部下総守

都て吉田白川兩家乃配下尔て。國名に受領ハ  
多し候神職共。名前伺書ハ勿論。請證文等にも。

曾我豊後守

下司ハ不相認。仕來に候得とも。下方より差出  
候書面類尔を。下司ハ不為相認方に候哉。御取  
計振承知致し度。此段御問合仕候以上。

午正月

御書面の趣令承知。位記口宜。請候神職とも  
儀伺書ハ勿論奉行所より申付候請證文等  
にハ下司不認仕來<sup>候</sup>得とも。下方より差出  
候書面類尔ハ。下司認素不苦儀ニ付。為相省  
候儀ハ無之候。

午正月

間部下総守

司書省



○慶刑條例

○御仕置例類集云。伊勢外宮師職。檜垣大和儀。去  
亥年九月。外宮一禰。宜長官。檜垣三位より。御被  
獻上。二月。三位為名代。上京致し。獻上等相濟候  
處。上京之節。供。召連候。莊門。杵事。浦口。杵儀。山  
田表。用向出來。先。差返。大和儀一人にて。荷  
廻致し。山田表。罷歸候。二月。本名相名乘候儀。  
不外聞。候。進。十月八日。勢州關宿にて。浦口  
杵。假名相名乘。且京都より。私用辨し候儀ハ。  
三位。相願。承届候事。候得共。龜山。其外所々

ハ。罷越候儀ハ。三位。相願候儀にて。無之處。右  
所々。罷越日數。逗留致し。第一三位。頂戴。罷在  
候。禁裏會符の儀ハ。大切成品。小候得ハ。關宿旅  
籠屋にて。止宿の上。他行致し候ハ。入念宿役持  
と。兩桐油乃間。差込置候儘にて。所々。罷越  
龜山宿より。關宿旅籠屋。手紙を以。申遣候節  
無僕。候處。檜垣家供役人。心認。御用。向隙入。逗  
留致し候段。申遣候旨。申之候得共。私用を御用  
向隙入候旨。相認。差遣候段。紛敷仕方。殊に長持  
御會符。殘置候上ハ。同月十一日。關宿。立歸候



節早速相改可申處翌十二日朝出立致し候節  
に至相改候始末等閑成儀其上關宿にて紛失  
趣證文認具候様相好候節問屋役人忠左衛  
門斷申候連長持預け捨に仕置出立致し候に  
付關宿より津宿迄問屋役人共持參い多し候  
様相成尤不心附候とハ申右人足賃錢も不  
相拂候儀共重々不届の至し付三方の師職取  
上日數百日押込相伺候處評議之上輕追放  
御仕置例書云天明七年十二月九日麹町平川町一丁目家  
主勘七店神職上村求馬右の者儀武州赤山山

王神主川隅左門と偽兩掛荻箱へ伊奈攝津守  
内川隅左門と認候會符を付南八丁堀三丁目  
守兵衛店七兵衛方に居候久左衛門を供ふ相  
雇同國中の村外八箇村へ罷越五穀成就の被  
札を配初穂錢取集徳用に致し候始末不届  
付江戸拂  
御仕置例類集云寛政五丑年内宮年寄儀部隼人外壺人山田三  
方山田大路數馬外三人右之者共儀御條目茂  
有之候處奉行所へも無沙汰是迄の姿に致し  
置度段祭主へ相歎其上已乃存寄を以新規

司長前



此祭服。受許容度旨。内願致し置。歸國の上。仲間  
の者一も不申聞。浦田織部上京の節。至り。其  
段申會免遣し。受許容候段。不埒。付。五人とも  
三十日通塞と相伺候處。評議の上。五十日と定。

○享和二戌年九月三日。神田松枝町。家主藤兵衛  
方に居候。陰陽師天正源之進。右の者儀。床見世  
へ罷出。占考渡世いたし。同職多甲斐任頼。同人  
を差置。兩人より。相稼候。付。見料余計有之  
候様。致し度候とて。相州矢部村。大善寺。隠居還  
阿より。兼て貰受候。葵御紋附の箱。差置候ハ。

諸人信仰の多し。下筮頼来候をの。相増可申と  
存。甲斐差留候を。不取用。御紋附の箱。床見世  
へ差置候段。不届。付。江戸拂。

○享和二戌年九月十六日。飯倉片町。神職上打丹  
後。右の者儀。葵御紋附の品。猥に相用候儀。難成  
段。前々御觸り有之候處。兼て祈禱相頼候。武家  
方より。右御紋附金襴乃切地。寄附の多し候と  
て。摩利支天厨子へ掛。居宅へ差置候段。公儀を  
不恐い。多し方にて。其上大奥向女中より。加持  
祈禱被相頼。最初い重き御方へ。差上る儀とハ。



不存候とも。其後重き御方の由相分り一旦及  
斷候を。遮て相頼。勿論他言等致間敷候と申聞  
候ハ。猶更可相斷儀を。却て同意ハ多ク度々  
守札差上。剩古札認方等邪法にハ無之候とも  
出所不慎書物よ。差出。又ハ自己存附を  
以て。相認候始末。神職乃定式を。相背き。旁不  
届。神職を構。輕追放

○文政十二丑年十月九日。田口五郎左工門御代  
官所野州那須郡鷹巣村に罷在。白川家門弟此  
由申立候大村武蔵古の者儀鷹巣村金五左衛

門任頼。三斗内鷹巣兩村鎮守温泉明神の神事。  
執行罷在。右神主に相成候積。兩村役人共と及  
示談。右村支配役所の無沙汰に。白川家へ願乃  
上。右明神神主乃許状を受。殊祭禮の節。神事一  
人にてハ。神事難執行社内へ相詰。神酒等備候。  
兩村當番の者。神事執行候様に。相成候ハ。年  
々代々々々の。當番の者共迄。神事執行も出來  
祭禮の節ハ。勿論。神主病氣差合等。有之候ても  
差支無之。村為にも可相成存候とて。其段兩村  
役人共へ申勸。連印の願書請受。是又支配役所



へ。無沙汰に。白川家へ。頭の通祭禮の節。右兩村  
當番の者共。風折烏帽子。淨衣差貫着用。神事可  
致進退旨乃許狀申請。右村役人共へ相渡候段。  
旁不埒ニ付。急度も可申付處。牢屋焼焼の節。放  
遣立歸り候ニ付。押込。

○天保八百年十一月十五日。牛込等學寺内門前  
五郎兵衛店。神職加野若狹右之者儀。居宅に不  
動を勸請い多し。其上修法も不相辨。根に病人等  
乃祈禱致き由申成。異形の出立い多し。又ハ伺  
日焚上日。おと相唱。日限を定免。多分の參詣人

引請。剩奇瑞を顯ららハ。信仰の者。可相増と。不  
動威得有之節ハ。右焚上の烟の中。不動并二童  
子。刑を現由。其品々奇怪ノ儀申觸。謝禮又ハ初  
穂と唱。差越金錢。受用致き始末。不届ニ付。中追  
放。

○文化七午年。銀座一丁目。半兵衛店賣下渡世ハ  
多し候。左源太。右之者儀。往来にて。占いたし居  
候砌。百姓躰のハ此。立寄候間。占い多し遣立歸  
り候跡。胴卷取落し有之候ニ付。拾ひ取明見  
候處。内に金九兩三分有之候ト也。不圖欲心發



リ取隠し。右金子乃内所持致し。其餘ハ不残酒  
食遊興に遣ひ捨候段不届ニ付敲

伶人

能太夫

総則

○三奉行取計云。樂人博奕御仕置。延政六寅  
年。京都町奉行伺。笹屋町足打源四郎事源兵衛  
博奕筒取致候一件。御仕置評議の内。樂人御仕置  
の儀ニ付。同七卯年八月十八日。安藤對馬守殿  
秋山松之丞を以。一座ハ御渡被成候御書取。

樂人多豊後外二人。御仕置之儀。

御朱印配當米等有之故を以。遠寫ニ申聞られ  
候得共。御朱印寺領有之僧侶。都テ御仕置無



差別。例小候上ハ。博奕に限り。重リ可申筋無之候間。多豊後外二人共。中追放申付候。向後寺院も。御朱印地の有無に不抱相當の御任置可被申付事。

○新張紙云。宝曆三百年二月内藤隼人正殿へ筒井伊賀守より。

觀世太夫。其外の他の御吟味筋等にて。各様御役所へ御呼出有之候筋の御取計振承知いたし度。此段及御掛合候以上。

御書面觀世太夫。其外太夫呼出候筋。前日明幾日何時御用の儀有之候間。拙者御役所へ

罷出候様可申談旨。組同心差遣。口上にて申達。受書取候の儀。有之候。依之及御挨拶候。

酉二月

筒井伊賀守

○慶刑條例

○御仕置例類集云。寛政六寅年。京都新町通繼孝院町。小野屋をて借屋樂人多豊後守。右のもの儀。博奕の儀ハ。無て嚴敷御觸も有之。御法度純儀を存。并筒屋市兵衛方。其外にて。去丑二月頃以來。十三箇度程。足打源四郎事源兵衛。外四人。筒取錢二百五十文より。一貫六百文迄の

同法有



承引にて。簷博奕い多し候段。身分不相辨致方。  
不埒ニ付。家財關所關職ニ相伺候處。評議の上  
中追放。

○修驗

總則

○裁斷類聚云。修驗身分取扱心得之事。修驗共宗  
門改の節。町人百姓同様ニ取扱候ニ付。迷惑乃  
段。觸頭より申立候書面修驗共坐席の儀。仕来  
相改候儀ハ。不容易とハ申奉行所よりと三  
衣を着し候修驗者。官職の無差別。疊掾へ差出  
し候上ハ。筵の上へ罷出候儀。相頭候段。無余儀  
事ニも相聞候間。被相改外寺院并被取扱候方  
と存候。尤町在共。是迄相勤候諸役ハ。勿論。人別



帳面町人百姓並に、多し候儀等。都て是迄の  
通に被致。席を加之前書。の振合に被取扱。且右  
躰取扱乃品能相成候。辻村役人等へ對し。仕來  
乃儀。不相拒様。嚴敷御申付置候方と存候。寛政六寅  
年四月。秋田信濃守よ。名前  
不知寺社奉行へ。問合挨拶。

○類例秘録云。寛政十一年九月。本多伯耆守よ。已。  
修驗領主へ呼出吟味の儀。

書面出家社人に候共。御領分の者に候上ハ。  
呼出し吟味有之候儀。聊不苦候間。名主弥右  
衛門。申立候趣を以。大寶院御呼出。對決御申

付。吟味之上。裁許有之可然候。若難決有之候  
ハ。其節御問合候方ニ存候。

○處刑條例

○御仕置例書云。明和元申年二月十三日。江戸麻  
布永坂町。名主次郎左衛門地借。修驗全寶院儀。  
當正月廿七日暮時過。役人躰に、い角。深川永  
代寺門前仲町。同町吉六店源八。所持之搦  
子鍬を。持通候を捕。自身番所へ連參。右躰之品。  
夜中持歩行候儀。有之間敷旨。彼是と申聞候儀  
と。酒に給醉。一向不覺旨。申之候得共。袈裟ハ



懷中い多し。頭巾をかぶる。帶刀致し。修驗之躰  
も無之。役人躰にて。右及始末候段。酒狂にく。不  
覺と乃申譯。不取用。旁不届之至。付。江戸拂。

○御仕置例類集云。安永三年。深川熊井町。五人  
組持店修驗者順賢院。右の者儀。養子小貫可申  
旨。内談。花より候密門儀ハ。欠落い多し候也  
此山く。預置候雜物ハ。取逃の品に有之。秀方  
より。預置候金子也。密門取逃の品。賣拂候代  
金に有之處。其儀ハ不存候共。密門元出家と申  
儀ハ。存あらし。罷在。得と身元も不相糺。其上密

門任相頼。身元素生も不存。秀を預置。其後吟  
味を恐れ。知人の方へ預置。最初呼出之節。右の  
始末ハ。押隠し。秀行衛の儀。不存候旨申立候段。  
旁不届。付。五十日押込。

○安永九子年。京都下立賣千本西へ入町。修驗道  
觀壽院通海悴普善院卦善。右乃者儀。博奕乃儀  
ハ。蕪て巖敷御觸も有之。御法度乃儀を不存。伏  
見屋庄三郎方にて。去丑七月頃以來。二箇度且  
打源四郎事源兵衛。外四人。筒取錢二百文より。  
四百五十文迄乃取引にて。筭博奕い多し候段。



修驗道乃身分にて。右始未不埒。取持の品  
取上。修驗道相構候と伺候處。評議の上。脱衣中  
追放。

○御仕置例書云。天明七未年九月廿二日。本八町  
堀長澤町。本山修驗本明院普寬儀。若王寺より。  
觸頭役梅之院へ。申付不心得候共。本寺申付  
候上。願筋申立間敷處。大泉院へ。役儀申付有  
之候様。致し度存。同行共大勢連印之願。重立取  
調。若王寺へ差出。其上若王寺役人共。梅之院  
副合。押て役儀奪取儀と相疑罷在。奉行所にて。

難立筋之旨申聞候。利害を。不承請。一旦我意  
申張候段。不届。付。修驗道構。江戸拂。

○寛政二戌年十二月七日。常州真壁郡山田村。修  
驗蓮上院養子左近。右の者儀。母いゑと致密通。  
養父蓮上院。被見頭。致欠落。其後太郎左衛門  
宅にて。いゑを切殺。其身ハ致自害。其節太郎左  
衛門母をいゑ。重き疵為負候段。不届至極。  
付。鹽詰の死骸。引廻の上。於淺草磔に申付之。



○虚無僧

総則

○家康公虚無僧御定云。日本國中虚無僧勇士浪人。一時の隠家として。不入守護の宗門に依て。天下乃家臣。諸士の席に可定の條。可得其意事。一本寺宗門の法。出置候。其後無油断。為相守可申付候。若相背候者。有之にホめてハ。本寺より虚無僧ハ。急度宗罰可行事。

一虚無僧の外。尺八を吹申之乃。於有之ハ。急度差留可申候。尤懇望の輩ハ。本寺より。尺八の免を



出。為吹可申。勿論諸士の外。下賤のもの。一切尺八を吹申間敷候。尤虚無僧のもの。たゞた為致間敷事。

一虚無僧多勢集。逆道を申合その。有之に於いてハ。急度吟味懸。本寺元番僧に至まで。重罰たるへき事。

一虚無僧渡世の儀ハ。諸國所々巡行。専と仕候由。其段差免申候。一遍修行の内。諸國に於いて。國法杯と申。虚無僧鹿木慮外の體。又ハ托鉢等障六箇敷儀。出來候ハ。子細本寺へ可申達。於本

寺不濟儀ハ。早速江戸奉行所へ可告來事。

一虚無僧托鉢日罷出。或ハ道中宿。往來所々。何方にて。天盖を取。諸人へ面を合。申間敷事。

一虚無僧托鉢乃節。刀服差。并武道具類。一切為致申間敷。惣してハ。かつ箇間敷。なうわ。ち。致間敷。尤一尺以下乃。又物。懷劍として。差免可申事。

一虚無僧儀ハ。勇士乃道。敵射尋廻國杯の儀も。有之によつて。芝居渡舟等に至まで。往來自由差免申事。

一似虚無僧。於有之ハ。急度宗法可行。若又賄賂を







改りて通可申事。

一住居を離。他國所々城下。元托鉢修行。逗留一日の外。堅無用。若鳴々の停止等。告來候。宗門傳學の虚戲乃外の事。吹申間敷事。

一虚無僧の儀ハ。天下の家臣諸士の席に相定候上ハ。常々武門乃正道を不失。何時にても。還俗申付候間。表にハ僧乃形を學。内心にてハ武者修行乃宗法と。可心得を乃也。為其日本國中の往來自由。差免置候様。決着如件。

右上意の趣相渡申間。奉拜見會合の節。能々為

申聞。可被相守との也。

慶長十九年戊寅正月

本多上野介 在判

板倉伊賀守 在判

本多佐渡守 在判

虚無僧

本寺へ

○掟書云。本寺の住職ハ。其末寺。元本寺の身子仲間。以衆評撰器量。可相定之。縱雖有由緒。師弟子以相對。後住契約。并遺状不可立之。於末寺の住

司長



職ハ其寺乃房子こも相談乃上。伺本寺可居置事。  
一房子契約の儀。改其人慎に取證人可極之。為背  
大法。追放人等。不可抱置事。

附虛無僧の作法。古來相定の通。從本寺弥入念  
急度可申付事。

一末寺并弟子中。背一宗の法令。仕置時ハ小科の  
者ハ。断本寺可任差圖。大科の族ハ。達奉行。落着  
可申付之。理不盡之働仕間敷事。  
右之條々。堅可相守之。若於違背ハ。可為曲事者  
也。

延寶五丁巳年十二月十八日

太田撰津守印

板倉石見守印

小出山城守印

虛無僧諸派

本寺中

末寺中

○諸向問合類集云。慶長十九年甲寅正月の御條  
目ニ云。虛無僧諸國行脚之筈。疑敷者見懸候時  
ハ。早速召捕。其所へ留置。國領ハ。其役人へ相渡



地領代官所ハ其村役人へ相渡可申事。

○裁断類聚云。虛無僧之事。総州小金一月寺。武列  
青梅鈴法寺。門弟共相用候。深編笠。在々して。賣買  
仕候ものとも。以來兩寺。又ハ國々。其最寄りて。  
右末派の寺院より。印鑑受取。合印持參。不致候  
ハ。虛無僧。元商人たり共。堅賣不申候様可致  
旨。御料ハ御代官。私領ハ領主地頭へ可申渡候。

寶曆八年寅十月

小金 一月寺

青梅 鈴法寺

右兩寺より。本則相望候ものへ。與ひ候儀。是迄  
一月寺ニ於てハ。任懇望士商の無差別。致附與  
來。鈴法寺よりハ。武家乃儀ハ。任望町家のり。此  
へち。致望候こと。決て不致附與候へこと。尺ハ  
手練乃者。相望候ニ付。竹名を相許來候由。一月  
寺ありハ。竹名と申儀無之由。彼是兩寺。取扱區  
々に相聞候。一宗一派乃兩寺たり上ハ。左様  
ハ有之間敷事あり。自今以後ハ。兩寺より。本則  
懇望の者へ。附與の儀。仕官の者。於相望ハ。其人  
品得と相糺。不為背法。出奔人等に。無之候ハ。



慥成證人取之。可任其望。其外百姓町人等ハ。假令只管相望候之。畢竟遊戲此事に候ハ。急度令停止候條。可得其意候。且鈴法寺方めて。町家尺八手練の之。此ハ相許候。竹名乃儀ハ。是又其用無之事候。向後堅可為無用候。附本則所持の虛無僧の姿めて。修行いた候儀。形を相忍不申候て。不叶子細有之。番所罷越。相頼候ハ。其趣意得之承届。實々紛無之候ハ。其日限に任望遣。其日不得本望候ハ。又翌日法衣等可貸遣。連日任其意置候儀。可為無用候。尤致修

行候。方角承糺。假めて遊興の筋に候ハ。兼て附與致一置候。本則ハ可取戻。且又衣服の儀。寺法の通。綿服或ハ絹紬に限。修行者相應の儀。勿論の事に候。右之趣。今般相改申渡候條。諸國本則差出候程の。末派寺院へハ。無紛相觸可申候。尤延寶年中書付を以て。申渡候趣。弥以嚴重可相守。若於違背ハ。可為曲事者也。

○虛無僧祓子之間敷節。取計方。御書付之事。近年村々。虛無僧修行之躰めて参り。百姓共ハ。杯たり箇間敷儀申掛。或ハ旅宿を申付候様。村役



人杯へ申付候故。宿取遣候得ハ。庶宅めて止宿  
難成由を申下ハレ。其場に居合候者を尺八に  
て打擲致シ。疵付候儀。有之段相聞。不届之至ニ  
候。虚無僧修行致シ候ハ。志次第施物を請。夜  
に入候ハ。相對也。可致筋ニ候間。以來虚無  
僧共。聊も不法之筋。有之候ハ。其村方に差押  
御料ハ御代官。并御預所役人。私領ハ領主地主  
へ早々可差出候。若於相背ハ。其村方可為越度  
者也。前兩條共寫取。村入口。又ハ高札場。名主宅  
等へ。可張出置首。末文有之候事。  
安永三年正月

○類例秘録云。寛政四子年二月。水多肥後守より  
家來暇差出シ。領内徘徊差止候處。虚無僧に相  
成立入候儀伺候。答ニ書面御領分立入差留。暇  
差出候者ニて。虚無僧ニ成立入候ハ。自分  
仕置にハ。不相成候間。召捕置。奉行所吟味ハ儀  
御申立。

○諸向問合類集云。文化六年六月。中務少輔多古  
陳屋裏門へ。虚無僧三人参。尺八吹申候ニ付。無  
用の段。番人共相答候處。曾て不取敢。暫過漸退  
参仕候。亦々右翌日。兩人罷越。尺八吹申候ニ付。



番人共相咎候處甚過言の余り難渋申懸候趣  
相聞候。佐番人其儘差置候間。無程退引仕候。免  
角近村に罷在候趣。相聞候間。又々陣屋表裏の  
門杯へ參。前書の通。理不盡の儀有之節ハ如何  
可仕哉。假令雖為在邊。武家方表裏門杯へ罷越  
候儀ハ有之間敷事に。奉存候へとも。在方虛無  
僧往來ニ付。子細り御座候事哉。此以後裏門へ  
參候節之。亦相制。若不法の挨拶等ハ多し候得  
ハ。差留置様子相尋候心得御座候。右虛無僧付  
先年御觸等も御座候事也。兼て相心得罷在度

旨。在所役人共より申越候間。此段奉伺候。

松平宮内少輔家來

下札

書面他領より罷越候。虛無僧村方へ立入達  
て施物等。申受度由にて。初より箇間敷儀。申  
掛候歟。又ハ及不法候ハ。安永三年御觸乃  
趣も有之候間。捕置奉行所吟味の儀。御申立  
候方と存候。

書面虛無僧。武家屋敷門前に立。吹笛ハ多し  
候儀ハ。無之事に候間。無用の旨。断候ても不



相用。若不法の儀。有之候ハ。前箇條の趣に準。被取斗候方と存候。

○文化六年十二月。虛無僧寺法を犯。本則取上。破門致。候後。其者虛無僧躰に似せ。致徘徊。押無心申候儀。風聞有之。虛無僧寺より取押。法具取上候儀ハ。勿論之儀と存候得共。一旦致破門候者。マ。虚無僧寺之寺法ニ。取計候筋ニ。御坐候哉。奉行所の裁許可請筋に御座候哉。此段御問合仕候。

御書面虚無僧共。不埒有之。本寺より本則宗

具等取上。追拂候後。似せ虚無僧ニ成。徘徊ハ多。候者。御仕置申付候例。差當相見ハ不申候間。本寺より相糺候處。印形宗具取上。追拂候後。宗躰に似せ。致徘徊。押テ合力等乞候儀。及見聞候得ハ。差押ハ。不埒之始未相糺宗具取上候仕来之由申立候。勿論一派取計難行届候ハ。奉行所吟味願可有之筋と存候。

甲斐守ヨリ問合  
松平和泉守答

○慶刑條例

○御仕置例類集云。寛政六寅年。松平右京亮頒分。

司書



上州群馬郡高崎普化宗清海寺住持春待右の  
者儀百姓町人へ本則附與御制禁を不相守藤  
右衛門町人の身分に承最初に本則附與致し  
當表にて追々本則相弘明暗寺と拵合の後所  
詮宗縁の者相止候積致一決當表本則不殘取  
上の儀印書を以明暗寺へ承相頼置又候當表  
よ於て百姓町人其外元浪人にてり當時在家  
に立交り無宿同前の者共へ猥に本則致再附  
與本堂再建為助力吹入と唱渡世の為虛無僧  
會同前の儀を俗家の藤右衛門に為引請本則

致附與身柄の儀承紀候儀も等閑にい多し置  
候ハ宗法を糾し候仕方ニ有之明暗寺院代寛  
哲と應對の次第ハ双方申口ハ片水と難相  
分候得共假令其節最前の印書取戻對談決置  
候共一躰の申披ぬハ難取用旁右始末不届ニ  
付脱衣の上追院

○寛政六寅年松平右京亮領分上州群馬郡高崎  
普化宗清海寺門弟潮風右の者儀清海寺宗縁  
とて徒黨同前の申合に不致荷擔候段ハ無相  
違相聞候得共百姓町人へ本則附與御制禁の



儀。且門弟にも無之。本則附與の如者。猥に虚  
無僧修行ハ難相成。尤他乃虚無僧。不如法有之  
候て。宗禁等可取計身柄。無之趣。宗法等亦  
相辨。當表宗縁乃内にハ百姓町人。其外元浪人  
あり。在家に立交り。無宿同前の者有之。猥に  
渡世乃為吹笛修行致し候次第。如何の儀と  
不心付。既に當時無宿蒼山。居所不糾。本則附與  
乃世話い多し。町人の藤右衛門宅にて。虚無僧  
會致し候席へも加り。會判改請。且明暗寺役僧  
當表へ罷出。清海ハ宗縁の者を。致宗禁候故一

派乃者。相談いたし候次第。鼈山より。再應の申  
談に。當惑致し。鼈山ハ明暗寺虚無僧。不如法有  
之候ハ。宗禁いし候て。不苦様の。卒忽ハ  
差圖致し。旁不届付。本則宗具取上。輕追放  
○御仕置例書云。弘化四年十月十一日。松平右  
京亮領分。上州群馬郡。高崎宿。普化宗。清海寺元  
看主にて。出奔致し候。鑄久門弟。真量儀。右之者  
儀。普化入宗いし。有髮あり。女犯難相成身  
分。醫師躰ニ仕成し。武州内藤新宿。旅籠屋次郎  
七方へ立越。同人抱食賣女を。酒の相手に致し。



酒興乃上。密通申掛。女犯及ヒ候始末。不届ニ付。  
晒の上江戸拂。

○盲人座頭

○御定書云。座頭御仕置ハ。惣録へ。科の次第申聞。  
座法可申付旨。申渡之。從前々之例

○安永撰要集云。檢校勾當。其外座頭共。御仕置の儀。死罪以上ハ。公儀御仕置被仰付候。死罪以下ハ。奉行所子高吟味の上。仕置の儀。惣録へ科の次第申聞。座法ニ申付候様申渡。遠島ニ當り候刑ハ。告文装束取上。關官不座申付。江戸十里四方。武藏。山城。大和。和泉。攝津。且上國。惡事致一候



國を構。追放。但當人名前の田畑。家屋敷。家財共。闕所。重追放に當り候刑ハ。告文装束取上。闕官不座申付。江戸十里四方。武藏。山城。攝津。且生國。悪事の國を構。追放。但闕所同断。盲人御仕置ハ。遠嶋追放等。可成科ハ。親類へ預ケ。居村の外。猥に致徘徊間敷旨申付。中追放。當り候刑ハ。告文装束取上。闕官不座申付。江戸十里四方。武藏。并生國。悪事の村を構。追放。但當人名前の田畑。家屋敷。闕所。家財無構。輕追放に當り候刑ハ。告文装束取上。闕官不座申付。江戸十里四方。并

悪事の國を構。追放。但田畑計闕所。江戸拂。當り候刑ハ。品川。板橋。千住。本所。深川。四谷。大木戸。より内。并出生の村。悪事の村を構。追拂。所拂。當り候刑ハ。在方の者ハ。居村。江戸の者ハ。居町を構。寛保三定

○評定所格例云。座頭御仕置の事。安永八亥年十一月。座頭共御仕置の儀。付。一座評議書上。當八月七日。御渡被成候。座頭御仕置の儀。付。曲淵甲斐守。并惣録へ。御尋の上。差上候書付の通。死罪以上ハ。公儀御仕置。小相成。振候儀も無之。



哉。且又死罪以下の科ありて惣録へ引渡候節。各  
の當惣録出候書付の趣ありて。不相當の儀も無  
之哉。評議仕候趣。左に通り御座候。

一座頭御仕置の御定ハ。惣録へ科の次茅申聞座  
汰。小可申付旨申渡と有之。死罪以上以下の差  
別ハ。無御座候得共。惣録申立候趣ありてハ。死罪  
以上ハ。盲人の力小およひ不申候ニ付。公儀御  
仕置相願候由ニ付。死刑以上の者ハ。於公儀御  
仕置申付候方。可有御座候。尤非人御仕置の  
儀も。御定書小穢多彈左衛門へ渡。相當の仕置

可致旨申渡と有之候得共。遠島以上ハ。公儀  
て。御仕置被仰付。遠島以下ハ。彈左衛門へ渡。相  
當の仕置申付候様申渡。引渡遣候間。旁座頭共  
御仕置の儀も。死罪以上ハ。公儀ありて御仕置被  
仰付。振候儀ハ。有御座間敷哉。小奉存候。尤右の  
趣ありてハ。座頭共も。遠島以上ハ。公儀御仕置小  
被仰付候ても。可然哉。候得共。盲人の儀故。嶋  
へ遣候てハ。一向渡世相成申間敷候間。前書  
の通。死罪以上。公儀御仕置。被仰付候方。可然哉  
小奉存候。



一死罪以下にして。公儀御仕置に相成候例も御座候へやも。時宜しくも可申候間。死罪以下ハ。御定の通座法に可申付旨申渡。惣録へ引渡可遣儀小御座候處。今般惣録差出候書付の趣あり。座法の仕置極に候儀無御座。其時々職十老等の評議して。申付候事と相聞。區々相成候間。惣録差上候。座法仕置箇條の趣。評議仕候處。一躰盲人の儀故。追放構場所等。武家出家等の構國して。住所相定候儀も相成兼可申哉。檢校勾當して。闕官申付候へ。無官の座頭

小御座候間。百姓町人の構國して。闕所の品を以。重中輕相分可然哉。併町人百姓と違ひ。琴三味線針治導引を以。渡世仕候故。御當地ハ勿論。京大坂等。徘徊いふ候て。高位の者へ此交。咎請候身分して。不相當の儀も。可有御座哉に付。武藏一國の外。山城。大和。摂津杯ハ。輕重あり。徘徊差留可然哉。小奉存候。依之物録差出候書付へ。朱書して。評議の趣左に申上候。惣録差出候書付。

一遠嶋の儀ハ。舊例近例小隨。告文装束取上。闕官



不座申付。三ヶ津相構。追放仕度候。品も寄。生國  
或ハ二箇國三箇國。外も相構候儀も。可有御座  
哉の段申上候。

此儀遠嶋も當候刑ハ。親類へ永く預。押込置  
可然候も。御當地杯へを。國々より修行に  
罷出。段々出世仕。身上持罷在候。檢校勾當座  
頭共多。勿論多分を。親元輕者共小。可有御座  
候間。右の通もてハ。惣錄の取計もハ。行届申  
間敷哉二付。告文装束取上。闕官不座申付。江  
戸十里四方。武藏一國。并山城。大和。和泉。摂津。

且生國惡事も多。候國を構。追放申付可然  
哉。

但當人名前の田畑。家屋敷。家財闕所。

右同斷

一重追放も相當候者ハ。檢校も御座候ハ。座を  
引下け。今日檢校も申付。其上江戸十里四方。并  
生國京大坂構。可申付奉存候。

一勾當以下の者ハ。今日も申付候も。欠官仕候  
ハ。咎の詮も無御座候間。座も拘不申。江戸十  
里四方。京大坂。并生國相構。追放仕度奉存候。



此儀檢校。勾當。以下共。告文裝束取上。欠官不座申付。江戸十里四方。武藏一國。并山城。摂津。且生國惡事の國を構。追放申付可然哉。

但欠所同断。

右同断。

一中追放。小相當候との。江戸十里四方。京。大坂。相構。追放仕度奉存候。

此儀告文裝束取上。關官<sup>不座</sup>申付。江戸十里四方。武藏一國。并生國惡事の國を構。追放申

付可然哉。

但當人名前。田畑。家屋敷。關所。家財無構。

右同断。

一輕追放の者。江戸十里四方相構。追放仕度奉存候。

此儀告文裝束取上。欠官不座申付。江戸十里四方。并生國惡事の國を構。追放申付可然哉。

但田畑斗欠所。

一江戸十里四方追放。小當候刑ハ。日本橋より。四



方へ五里宛。并生國の居村を構。追放可申付候。  
一江戸拂小當候刑ハ。品川。板橋。千住。本所。深川。四  
谷。大木戸。イウ内。并出生の村。悪事の村を構。追  
拂。

一所拂小當候刑ハ。在方の者ハ。居村。江戸の者ハ。  
居町と拂可申候。

右ハ奉行所少テ。吟味の上。仕置の儀。座法小可  
申付旨申渡。引渡候節ハ。書面の通相心得。右の  
外。公儀へ不拘。仲間仕置の儀ハ。夫々先例等を  
以可申付候。勿論書面の通。極置候ても。其料の

品小寄。遠嶋以下の刑少ても。公儀御仕置小申  
付候儀も可有之候。右の趣。職十差へ。早々申遣。  
以来の規矩小可致旨。惣録へ被仰渡。可然哉小  
奉存候。

右評議仕候趣。書面の通小御座候。御渡被成候  
書付六通。返上仕候。以上。

亥十一月

右書面。松平右京大夫殿へ。致進達候處。申上候  
趣。惣録へ被仰渡。三奉行も。右の通相心得可申  
旨。被仰聞。



裁新類聚云

○中國西國筋。其外青蓮院宮御支配に相成候ニ  
付。武家倍臣の倅。盲人ハ。盲僧に相成。右宮御支  
配に候とも。又ハ琴三味線等ハ多シ。檢校の支  
配相成候共。勝手次第たるへ候。百姓町人の  
倅。盲人ハ。盲僧ハ。不相成。針治。導引。琴。三味線  
等。寄親等ハ多シ。盲僧ハ。相成候儀ハ。決て不  
相成事に候。右の外。百姓町人の倅。琴。三味線。針  
治。導引を以て。渡世不致。親の手前に罷在候而  
己の多シ。并武家へ被召抱。主人の屋敷。又ハ主  
人の在所へ引越。他の稼も不致分ハ。安永申年

相觸候通。制外多し。應く候。

天明五年  
八月御書付

附録

文化十酉年正月。上州。邑樂村。板倉村。外一ヶ村。  
盲人座。入門ハ。いふ候へ共。有髪して罷在。座  
法ハ。相背。剃髪不致旨。惣録松倉檢校より。石川  
左近將監。御勘定奉行の節。願出候ニ付。呼出利  
解申聞候儀有之候。尤盲人みても。三味線師匠  
へ。入門ハ。候とのハ。檢校の支配相成候節。  
別段相願候へハ。檢校方めて。有髪と差免候由。  
其節申立候。



○盲僧之事

一小弓。三味線。筑紫琴。小歌。淨留瑠。一切遊藝。以渡世致問敷事。

附座頭に受申間敷事。

一佛說盲僧四季土用地神經誦仕方。祈禱職ハ。一統相定。諸事不法之族。無之様被仰渡候事。

右之通被仰渡。無本寺に罷成。十徳輪袈裟着仕之事。寛政四  
子年定

一座頭共。貸金證文所ハ。弟子又ハ仲間中杯ト。書加有之。官金跡相續人。并讓請人等。座頭に候

ハ。定例の通取計。素人トシ。右躰の證文を以

願出候ハ。假令座頭の縁有之。そのハ候トシ。

濟方の沙汰不及積。寛政五  
月一  
座評議  
極

○盲人取扱方之事。盲人共儀。渡世の藝無之。親元

に罷在。又ハ武家へ被召抱候て。他の稼不致之

のハ。格別藝業を以。市中住居の分。并武家ト罷

在候トモ。他の稼い多ハ候類ハ。檢校の支配多

クハ。旨。安永五申年。相觸候處。近年座中へ不

入。盲人多醫業賣ト等。渡世ハ。候分ハ。坐中

の支配不請杯。心得違モ有之趣。相聞候。惣ト百



姓町人の倅ハ不及申。たゞへ武家倍臣の子弟  
にても市中住居の分。并に主人屋敷内に罷在  
候にも。琴三味線針治導引等の藝業。携候を此  
を。檢校の支配。可受筈の事。候間。其旨相心得。  
尤向後年々人別改の節。町方ハ其所々町役人  
在方ハ。名主組頭等。心と付。檢校支配。師匠の名  
前相改。其段人別帳へも。書記置可申候。文化十  
酉年三  
月御  
書付  
○新張紙云。無宿盲人御咎ハ。檢校。勾當杯へ引渡  
座法之通。為取計候得共。無宿瞽女の儀ハ。御咎

申付追拂候事。但酉九月。青山九八郎より。無宿  
瞽女御咎の儀。相伺候節。寺社奉行へ。掛合の上  
極。

深谷遠江守殿へ  
戸田日向守

牧野備前守殿  
深谷遠江守

文化十酉年。一座へ御下被成候。堺奉行。相伺候  
無宿盲人。次兵衛。偽の往來手形を以。村送小相  
成候一件。御仕置評議の節。非人乞食の類ハ無  
之。無宿盲人。不届有之候を。諸奉行所。并遠國  
城下陣屋等にて。糺の上。座法之通可申付旨申

司長



渡其所若檢校。勾當。不罷在候。最寄在名以上座元杯の類へ引渡。差支の筋無之哉の段。御先役方々。惣録吉川檢校へ尋有之。京都十老へも申遣候上。無差支旨申立候。二付。次兵衛儀。堺兩郷拂可申付處。盲人の儀。二付。座法之通。可申付旨申渡。其所の檢校。勾當へ引渡。若檢校。勾當。不罷在候。最寄在名以上座元杯へ引渡。可申旨被仰渡。可然哉と申上。其通相濟候後。手限吟味物の内。無宿盲人。不届有之候。その料の次第申聞。座法の通。可申付旨。申渡。惣録

等へ。引渡遣申候。無宿瞽女の儀も。右次兵衛評議の趣を以取計。差支之儀有之間敷哉。否承知。いと一度。此段御問合仕候以上。亥七

御書面の趣。令承知。無宿瞽女引渡の儀。惣録相糺候處。御府内并在方住居の瞽女とも。檢校。座頭等の弟子小成。琴。三味線。舊古いた候分。其師匠より。藝能の免状。差遣候へとも。右ハ座法。拘候儀に無之。前々仕來て。配當錢差遣候分も有之候處。右等の無差別。都て瞽女ハ。支配小無之候。二付。たとへ不

司書



埒有之候。こも。差構不申候間。引請兼候由。尤  
文化十酉年より。無宿盲人を引請候へとも。  
右ハ安永。文化の度。御觸以來。琴。三味線。針治。  
導引等ハ。藝業ハ。携候盲人とも。檢校の支配  
ハ。相成候ゆへ。無宿もても。座法ハ。申付候旨  
申立。尤。瞽女の儀ハ。盲人ハ。御定も有之候間。  
追放ハ。申付兼候哉。候へとも。座法もて  
ハ。矢張追放刑も申付候事故。追拂候もて。右  
御定ハ。差響候儀も有之間敷。石躰今般の瞽  
女ハ。惣録難引請旨。申立候上ハ。通例無宿ハ

取扱少て。直ハ。咎被御申付候方に可有之哉。  
猶御勘辨の様存候。右ハ。牧野備前守御役替  
ニ付。拙者も御挨拶おし候。

子十一月

戸田日向守

○類例秘録云。無宿坊主。堂上方御免之旨。申觸。諸  
國勸化ハ。多し。歩行候一件。吟味伺。書面生立儀。  
栗田御殿も。御免旨。諸國勸化ハ。多し候段。教  
順申聞候を。實事ニ存候へ共。右勸化物。配分可  
致。且身分取上。吳可申段。申候。迎。附。漆。歩行。殊  
同人ニ立別候節。任申勸化帳。其外法衣等を



請取。夫<sub>レ</sub>教順之名衆。所<sub>レ</sub>勸化ハ<sub>レ</sub>步行。剎遠州。中泉村。役人共方に於て。勸物少分に候。迎。再應勸物之儀。申談候始末。不届ニ付。中追放。可申付候處。盲人之儀ニ付。座法之通り。可申付。旨申渡。其地ニ罷在候。檢校。勾當。引渡。若<sub>レ</sub>檢校。勾當。罷在候。取寄相糺候上。座元。引渡。證文取上。可差出候以上。文政五年

○盲人呼出坐順之事。手打掛。丸打掛。哥仙

打掛。衆分。以上砂利。在名。四度。以上落椽。歌仙。勾

當。立寄。勾當。右座。勾當。權野。勾當。小別

當。惣別當。檢校坐。以上椽。文政十二年正月

○處刑條例

○御仕置例書云。寶曆四戌年九月廿五日。江戸。淺草。三間町。勘右衛門店之者。座頭成都儀。小普請。布施久五郎方へ。金子拾兩借置候得共。返濟相。滞候故。度々致催促候處。藏宿み了也。金子不差。出候間。直差い多<sub>レ</sub>候付。玉落候。此者方<sub>レ</sub>已。人遣受取可申候。其節金子可致差引旨<sub>レ</sub>て。御借米手形。先達而久五郎方<sub>レ</sub>受取候付。當。六月。玉落候間。中間傳兵衛を侍に仕立。折々雇



候久兵衛ニ申者ト雇傳兵衛に添久五郎家来  
ニ申御藏へ遣御金為請取候旨申候得共藏宿  
へ致對談候得共難相成儀ト候故押隱右躰之  
儀取計殊に右金子傳兵衛方より此者密々乍  
受取置藏宿淺草茅町二丁目喜兵衛方へ押へ  
取候儀可有之申紛ニ其上雇候久兵衛住所之  
儀ト此者申付吟味之節為偽候儀トト旁不届  
ニ付此者方へ請取候金子拾三兩ハ取上座法  
の通致仕置候様申渡惣録小野崎檢校へ引渡  
○寶曆五亥年三月二日江戸淺草猿屋町ハ兵衛

店渡邊立伯儀座頭仲ヶ間に候處我意申募仲  
間へ不立歸候ニ付惣録小野崎檢校へ引渡座  
法小可申付旨申渡候處今以我意申張座頭仲  
間へ不立歸旨小野崎願出候ニ付遠嶋

○明和八卯年十一月十八日當時無宿三保野都  
儀深川八幡旅所門前忠五郎方母了賣女この  
を買揚ケ心易相成候處段々不束の儀共有之  
ニ付心外に相成憤を晴可申ニ當三月廿二日  
一宿致し候節夜更密に起出所持鼻紙袋并  
内に有之候品々物影へ捨置候處翌朝に至リ

司去



忠五郎下女見出。噂い多し候節。初而存知候趣  
にいゝ成。右鼻紙袋の内に。貸金證文二通。并  
小銀二十拾五匁。錢少々入置。紛失いたし候旨。六  
ヶ敷申掛候と。忠五郎承取扱候得とを。不得心  
二付。右之通取扱。憤を晴可申と申掛致し。この  
を相手取。駈込願い多し候段。不届二付。平人に  
候得ハ。敲の上。江戸拂可申付者に候間。右小准  
し。座法の仕置。可申付旨。惣録若村檢校へ申渡  
引渡遣。

○安永八亥年二月六日。無宿八十野都儀。去年閏

七月十四日朝。三十間堀四町目。伊八店多膳都  
方へ。参合罷在候節。中川修理大夫家来。安住四  
郎左衛門。罷越。滞金催促之儀に付。多膳彼是雜  
言申罵候間。多膳都に荷膽いたし。四郎左衛門  
に。面目を為失候い。心外に存。金子相濟可申  
哉。尤候い。多膳都致方手弱候故。四郎左衛門。  
我終申候事と相聞候間。首を抜候とを。取立可  
申候ヶ様申候段。口惜候い。切候凡可致候。大  
小ハ帶候ても。中々切候儀ハ。相成間敷旨。四郎  
左衛門側江摺寄。法外の雜言及ひ候に付。四郎



左衛門に被為手負候及仕儀。剝四郎左衛門儀  
も自害いひ。相果候上ハ。不届至極ニ付。死罪  
可申付候得。座頭之儀ニ付。惣録三澤檢校  
へ。料の次第申聞。座法ハ可申付旨。申渡。引渡遣  
ス。

○安永九子年七月二十五日。江戸。浅草。東仲町。仁  
右衛門店。幸之助親盲人秀仙儀。小普請組。長谷  
川利十郎支配。吉田左京。不如意にて。當用之才  
覺金。并勝手仕送之儀。浅草諏訪町。利兵衛店。市  
三郎方に居候。當時欠落宇八申聞候ニ付。知人

之内。金子貸出候。此も有之候故。金子口入致  
し。勝手仕送も致候。助成にも可相成と存  
在。京得心。乍申。最初金子借出候節。二割宛  
の禮金受取。其後外。金子借出候節。二  
割宛の禮金引落。又延金と名附。一ヶ月二ヶ月  
分の利足引取。右の内。金子或ハ世話人等へ遣  
し。相殘候分。都合五兩三分餘受取。右禮金延金  
等。利分に割入候得ハ。借主方に。格別の高  
利。不相當。其上御藏渡米金。引足不申候。出  
金致し。可相渡旨。證文乍入置。仕送致し候。自分



之金子ハ不殘受取。淺草御藏前片町。伊八店。札  
差佐兵衛へ。難儀為致。左京取續。成煎候及  
仕儀。或ハ返金相濟。金主々々。相返リ候。證文三  
通。淺草茅町代地。藤右衛門店。儀助置失。左京  
方へ。不相返候儀も不存。印形有之。證文等閑。可  
致置候始末。旁不届ニ付。江戸十里四方追放。可  
申付候處。盲人の儀ニ付。右世話料取上。親類へ  
預ケ。居町之外。猥に排細致間敷。旨申付。

○安永九子年七月二十五日。江戸。神田。久右衛門  
町一丁目代地。宇兵衛店。糸都儀。貸出候金子。利

金の外に。禮金取候儀ニ付。町觸并惣録々々の申  
付も有之處。其段相背。利欲ニ泥。所持の金子  
を。同町神山檢校金子の由申立。借主小普請組。  
長谷川利十郎支配。吉田左京家來へ。相對不  
致。利金の外に。禮金二兩一分。右秀仙々々受取。  
右金子と利金小割合候得。高利之金子に相  
當。過分の徳用取。金子貸付候段。不届ニ付。遠島  
可申付處。座頭の儀ニ付。惣録栗原檢校へ。谷之  
次第申聞。座法。可申付旨申渡。

○寛政元酉年八月十三日。小石川金杉水道町。勇



助店。盲人里鶴儀。小普請組。松平信濃守組。服部  
五右衛門。同酒井因幡守組。高橋庄兵衛。存生の  
内より。伴高橋吉五郎方へ罷越。御法度相背き  
廻り筒少て。二三百錢より。四五百錢賭の。長半  
簀博奕兩度致し。殊に盲人之身分少て。先達と  
御觸有之候を相背候段。不届二付。科の次第申  
聞。座法に可申付旨。惣録伊藤檢校へ申渡引渡。  
○寛政三戌年十二月廿七日。牛込中里村町。新八  
店里鶴事。秀意儀。先達て里鶴と申候節。不届有  
之。惣録金井檢校へ引渡。同人方少て。五十日通

塞申付。其後秀意と名改。去百十一月以來。雜用  
し差支候連。牛込等覺寺内門前。并音羽町隱賣  
女屋へ罷越。無心申掛。及断候とのへ。駈込訴  
いふし。可申旨申懸。都合金三分二朱。由り取  
候段。不届二付。科の次第申聞。座法に可申付旨  
申渡。惣録伊藤檢校へ引渡。

○寛政四子年九月二日。元数寄屋町二丁目。甚兵  
衛店。江賀崎勾當儀。師匠三澤檢校より。丹羽加  
賀守への。用立金證文二通。清澤檢校へ相譲り。  
同人より讓受候處。三澤檢校伴。三澤安之丞儀。



右加賀守方へ有付候ニ付。右證文金催促ハ勿論。表沙汰ハ致問敷旨。三澤申付候處。同人病死後。屋敷へ催促の上。及出訴候旨。相届候ニ付。同所々々安之丞へ。沙汰有之。遺状も。右證文金之儀ハ。有之儀ニ付。前書真正院より。證文取戻之儀。為相願候處。公事合之節。右文言ハ曾て無之。右ハ安之丞母子。利慾小致候趣相答。安之丞切継候。最初之遺状差出候下之。不承旨申張候得共。遺状ニ證文金之儀。最初より有之上ハ。不承との申分難相立。殊ニ三澤存命中。申渡候

儀も有之。旁師の遺言に相背候段。不埒ニ付。江戸拂可申付處。座頭の儀ニ付。座法之通可申付旨申渡。惣録伊藤檢校へ引渡。

○寛政六寅年五月廿七日。長谷川町。次兵衛店。廣都儀。北槇町。藤右衛門店。町醫西崎右膳。口入下。水野壹岐守家來。田嶋武左衛門へ。用立候金子は。通三丁目。武右衛門店。平助より。預置候金子に有之處。官金證文にいゝ。其上武左衛門。不埒有之。主人方みて。蟄居申付。其後永之暇出候儀承。右貸金取立相成間敷。屋敷役人へ掛り。



難法申掛。可為取扱旨。右膳申聞候。馴合。不法  
之儀。トハ乍存。品々事六ヶ敷申掛。剩留主居役  
之者。相手取。届書又ハ箇條書ト以。屋敷の家風  
承度杯。不埒の書面等差出。難澁申募。巧成致  
方。武家へ對。及法外候段。不届ニ付。重追放可  
申付處。座頭の儀ニ付。座法之通。可申付旨申渡。  
惣録へ引渡。

○續々刑例拔萃云。文久二戌年十二月十八日。江  
戸。岡崎町。吉次郎地面の内。借地ハ。候。盲人  
加藤勾當。外一人儀。買取候炭ハ。盗物ニ有之處。

其儀ハ。不存候共。銘々任申旨。得々出所も不相  
糺。右様の炭。買取候段。一同不埒ニ付。利兵衛ハ。  
買取賣拂候品の代。賣徳共取上。金之助。善ハ。忠  
七八。買取遣切候。炭代を以取上。加藤勾當ハ。買  
取遣ひ切候。炭の代取上。急度叱置。可申處。盲人  
之儀ニ付。座法の通。可申付旨申渡。惣録へ引渡。



穢多非人

總則

○科條類典云。非人御仕置。穢多彈左衛門へ渡。仕置に可致旨申付。但、遠國非人、其所穢多頭へ。仕置申付候様申渡。從前之定

○古張紙云。在方非人番杯、取寄穢多頭、人別相改。彈左衛門方へ。取集置候事、小候哉。遠國も同様、候哉。被仰聞可被下候。寶曆十辰年

附札

書面在方、罷在候。彈左衛門手下非人、人別

司書

司書



之儀ハ其所小罷在候。手下小屋頭共方小て相改帳面小仕立。彈左衛門方へ差出申候。彈左衛門支配外の非人人別ハ何方よて改り候哉。不相知候由申之候。関八州の外。彈左衛門支配いゝ候の共罷在候場所の儀ハ。甲州郡内領。谷村。駿州駿東郡。佐野村。御厨村。豆州の内不殘。其外奥州白川郡。相倉町の内。千駄。繩村の由申之候。

安藤彈正少弼  
牧野大隅守挨拶

辰二月

○裁断類集云。穢多非人。牢舎并預ケ牢賄等の事。

書面穢多非人。吟味の節。村預ケハ不申付。成丈。穢多頭。非人頭へ預申付。實々預めて難置入牢申付候の。牢内を仕切。百姓町人と入込に不成様いゝ。牢賄等の儀も穢多非人。夫々の頭へ申付候積勤番支配へ掛合候。尤同役中評議の上。申達候條。可被得其意候。

伺。来原伊豫守下知。

安永八年八月  
柴村藤十郎外三人

○享和度更正比考録云。彈左衛門方よて。夫々相當の仕置申付候事。

一叱り急度叱り。過料手鎖押込入墨の儀。叱りハ叱り置入墨も形違候迄。

司書



み。都て夫々答申付方。違候儀無之。尤手鎖押込等。其日数を相伺取計候。

一 敲の儀ハ。彈左衛門方みて不敲。五十日。又ハ百  
日牢舎申付來候處。享和元酉年七月より。敲の  
者も。彈左衛門方みて。敲候様相成候事。

一所拂。彈左衛門方みて所拂  
申付。支配内へ引渡。

一 江戸拂。是ハ御役所みて。素人へ構の箇所申渡  
候同様。夫々箇所構申渡。支配内へ引渡。

一 江戸十里四方追放。申付方。前  
書同断。

一 輕追放。申付方。前  
書同断。

一 中追放。申付方。前  
書同断。

一 重追放。申付方。前書同断。尤家財取上候。在方  
地面ハ。支配内は無之。小付地面ハ不取上。

右之通寛政九己年五月書出候事。

○新張紙云。寛政十一未年六月十一日。一座評議  
の上。書面之通相極。

御相談書

小田切土佐守

根岸肥前守

穢多平人小相成家屋敷買受市中小住居諸高  
賣等。いたし罷在候もの。吟味に成候節。右家屋  
敷家財等。鬮所に相成候も有之。又ハ穢多年寄  
へ。引渡候も有之。區々ニ付。當表取計方の儀。京  
都町奉行松下信濃守より。問有之候處。拙者共。



兩御役所小。右類例等無之二付。穢多頭彈左衛門心得方相糺候得共。是又耽といふ候取極も。無之二付。御勘定奉行へも。問合候處。一二類例有之候得共。是以耽と定り候儀も。不相見申依之以來。平人の地所。并田畑等に候い。右地面田畑ハ。平人ニ爲買受家作家財等ハ。穢多頭へ爲買受。全穢多村の地面に候い。家屋敷家財田畑とも。穢多頭に爲買受。右代金ハ。兩様共。其筋御役所へ爲相納。私領小候い。其領主地頭へ。取上候様申達候積。取極置候い。如何可

有御座候哉。及御相談候。未六

○古張紙云。穢多非人共。不届有之。敲重敲。可申付。その相當の仕置申付候様申渡。穢多頭彈左衛門へ引渡遣候。その同人方少て。敲ハ五十日。重敲ハ百日。牢舎申付來候由之處。此度申上。以來ハ。右過怠牢舎ハ。相止。敲重敲共。夫々掛々り。差圖の通。彈左衛門方少て。爲申付候。此段爲御心得。御達申候。享和元年酉年七月根岸肥前守より來り

御勘定奉行衆 町奉行

○裁断類集云。穢多非人呼出。并書付爲差出候節

司書



の事。都て穢多非人。呼出候時。其村方素人の  
村役人死にい。其村の穢多誰を召連可罷  
出旨の差紙可遣。併一村不殘。穢多に候。穢  
多ふて。村役可勤候間。其役人死。勿論  
返答書。日延の書付。又ハ濟口證文。其外都。平  
人連名一紙。ハ不致。別々書面上サセ可申候。

享和二戌  
年四月

○穢多非人。欠落勘當永尋之事。穢多非人永尋。遠  
國御代官伺の節。舊離帳外。願出候。不承届  
積小候。其譯ハ。舊離帳外致。候。手下を離

小素人に成。素姓難分故也。其上先年奈良奉行  
より。町奉行へ。問合の節。穢多頭。彈左衛門取計  
向。糺の節。本文の通極。享和二戌  
年四月

○穢多舊離勘當。此儀。遠國御代官より。伺候。ハ。  
外村穢多役人へ引渡。親族教諭。候様。村  
役人へ申渡候様。御下知有之候積。勿論。彈左衛  
門より。申立の趣を以て極。非人。ハ。舊離勘  
當。ニ申儀。ハ。無之由。是も。彈左衛門申立候趣を  
以て極。享和二戌  
年四月

○穢多僧取扱方之儀。伺。越後守御預所。備中國。阿



賀郡。村尾村。一向宗穢多寺。永寶寺と申者有之。  
尤本寺ハ。攝津富田本照寺にて。是まて素人僧  
ニ御座候由。勿論是まて。穢多呼出候節ハ。先支  
配振合と以て。白洲へ差出申候。然ル處穢多僧  
之儀ハ。呼出の節ハ。如何取扱候而宜候哉。此段  
奉伺候様。國元役人共。申越候ニ付。奉伺。文政元  
寅年十二月。書面穢多僧呼出候節者。砂利へ可  
被差出候。右者寺社奉行中へ掛合之上。申達候。

文政二卯  
年三月

○類例秘録云。穢多非人之類之者。取調之分。左之

通り。

長吏。關八州下野之内。日光御神領。并喜連川領  
分。常陸之國之内。水戸殿領分。相除其餘。不

猿飼

彈左衛門支配。御當。地不殘。并在方支配場所。罷在候分  
不殘。彈左衛門支配。尤非人手透。脇差を帶  
不殘。着不用。致候者。共に付。穢多非人同様。に  
取扱。不申。右兩様の間。取扱。縁組も穢  
多非人へハ。致し不申。

乞胸

是ハ猿曳と同様に。唱候儀も。御座候得共。猿飼も  
猿曳も。同様にて。諸屋敷へ罷出。馬之祈念  
又ハ猿を引歩。行。錢米貰ひ。請。其外町方を  
も。猿を引歩。行。錢米貰ひ。請。其外町方を  
御當。地乞胸。共。身分ハ。町人。少。其所の名  
主。の支配。を請。家業ハ。非人。頭。善。七。支配。尤  
在。方。乞胸。ハ。支配。場。所。罷。在。候  
分。ハ。身分。迄。不。殘。彈。左。衛。門。支。配。

司去前



甘う。御當地に無之。在方支配場

所に罷在。不殘。彈左衛門支配

是ハ。乞胸之。旅。少。了。是ハ。物。貫。致。し。渡。世。と。す。播。州。姫。路。網。干。邊。に。罷。在。中。國。の。内。少。了。を。

他。國。に。々。一。切。無。之。其。所。々。穢。多。頭。支。配。芝。居。杯。を。致。し。近。國。以。步。行。女。子。ハ。草。履。を。

是。ハ。三。味。線。鼓。子。を。彈。小。哥。を。諷。ひ。又。ハ。小。作。り。商。ひ。吉。山。の。家。に。て。施。を。請。渡。也。と。に。

茶筥。備。中。國。苗。郡。笠。岡。村。二。罷。在。牢。番。致。其。所。の。穢。多。頭。支。配。

垣外。京。都。に。て。ハ。悲。田。院。村。大。坂。少。了。ハ。天。王。寺。其。外。千。日。葛。田。等。小。罷。在。小。屋。非。人。の。類。に。

垣外。其。邊。都。て。唱。て。

船渡。水主。渡守。信。濃。國。水。内。郡。市。村。越。後。國。岩。船。郡。左。邊。町。ハ。罷。在。何。止。

も。別。構。々。ハ。々。ハ。直。セ。の。小。相。聞。候。得。共。是。と。非。人。等。々。り。ハ。直。セ。の。小。相。聞。候。得。共。是。と。

取。扱。候。筋。無。之。身。分。に。文。政。十。亥。年。十。二。月。付。耽。と。相。聞。不。申。候。

○陣屋無之。御代官役所小かゝりて。穢多非人共へ。

御仕置御咎等申渡方の儀。付。町奉行へ掛合。

町奉行衆。池田播磨守。一色丹後守。

関東在々。御代官所。住居。ハ。在。候。穢多非人。

と。ハ。吟。味。筋。有。之。右。支。配。の。御。代。官。手。限。に。て。吟。

味。詰。拙。者。共。へ。相。伺。御。仕。置。御。咎。の。儀。御。代。官。役。

所。に。於。て。為。申。渡。候。節。穢。多。彈。左。衛。門。へ。引。渡。し。

方。の。儀。文。政。三。辰。年。武。州。本。郷。村。非。人。權。左。衛。門。

司。法。官。



倅重兵衛外壹人不埒有之。急度叱り可置處。非  
人の儀も付。相當の咎可申付音。佐々木村非人  
頭久兵衛一同呼出。支配御代官大貫治右衛門  
方にて。申渡候處。右引渡の儀。其節の先役。石川  
左近將監方にて。彈左衛門へ。申渡候方。可有  
之旨。御先役榊原主計頭より。掛合有之。其通改  
て申渡。右以來同様取計。尤閑東少ても。陣屋有  
之御代官所の分。寛政十二申年。御先役根岸  
肥前守へ。先役共より。及掛合候節。閑東私領村  
方。住居の非人共。不埒有之候砌。其所の長吏

小頭へ。引渡相成候儀。少て。其村役人より。乃添  
状を以。小頭共。彈左衛門方へ。召連出。同人方。小  
て。夫々咎申付。其段尚又小頭より。領主へ。為相  
届候。仕來之由。挨拶有之。右に准。天保五年。  
御代官川崎平右衛門。野州真岡陣屋におわて。  
取寄長吏小頭へ。引渡。其外同様取計來候。然る  
處。非人共。加り候。博奕一件。御代官手限にて。御  
仕置申付候節。陣屋無之分。咎の儀。二付。引渡  
の。之の。有之趣を以。前日穢多頭。呼出の儀。其御  
代官より。拙者共へ。為申立。拙者共より。各様へ

司長



及御達候得ハ。彈左衛門御呼出。御代官誰方に  
テ。非人仕置引渡もの有之間。可罷出旨御申付。  
左候ヘハ。則奉行所よりの差圖ニ候間。御差支  
の筋無之旨。享和元酉年。御先役衆へ。先役共掛  
合濟有之。右之通。博奕一件の儀ハ。御代官役所  
少テ。直ニ彈左衛門へ引渡。其餘の咎ヨても。陣  
屋有之分ハ。遠路の故を以。最寄穢多頭等へ。引  
渡候ヘニ也。是又彈左衛門へ。直渡同様の筋ニ  
候處。陣屋無之。御代官の分。博奕一件此外ハ。拙  
者トモ方へ。彈左衛門一同呼出。渡遣候テハ。一

事兩様の取計ハ相成。殊ニ輕罪のを此以テも。  
御代官吟味詰。拙者共へ相伺。各の儀及差圖落  
着申渡相濟候上。拙者共方へ。差出の儀申立。差  
出日限。尚差圖いた。各様へ及御達。彈左衛門  
一同呼出引渡遣候儀ヨテ。無益の日数相掛り。  
自然下方難儀以多ク候間。以來の儀。博奕御仕  
置に不限。閑東陣屋無之。御代官役所ヨおわテ。  
穢多非人共へ。御仕置御咎等。為申渡。彈左衛門  
へ。渡遣候節ハ。右享和度。掛合濟同様引渡をの  
有之候間。御代官誰方へ。彈左衛門罷出候様。前



日各様へ拙者より可及御達候間其段彈  
左衛門へ御申渡有之候様い一度依之前々  
御掛合濟寫別紙一冊相添此段及御掛合候以

上

嘉永四  
亥六月

御書面之趣致承知候穢多頭彈左衛門相糺  
候處御當地住居の御代官より引渡を有  
之候節右屋敷へ罷出候儀ハ差支無之候旨  
別紙書付の通申立候間以來各様々拙者  
と七月番へ御通達次第其段彈左衛門へ申  
渡候様可致候依之為御心得右書付寫一通

差進此段及御挨拶候

亥七月

遠山左衛門尉

○處刑條例

○裁斷類集云寶曆八卯年十二月非人女御關所  
外へ不通先例之事豆州君澤郡原木村非人頭  
重兵衛右同人手下同州同郡山中村非人傳吉  
女房あさ事きよ共儀不埒之筋有之候二付私  
方にて相當の咎可申付旨被仰渡一昨二十一  
日私へ御引渡被遊候二付重兵衛儀ハ過料錢  
三貫文申付きよ儀ハ一昨二十一日より日數



三十日の手鎖申付候。且又豆州へ罷通候道中。箱根御関所有之。非人女罷通候儀。難相成御座候。先年も遠國の非人。御関所難罷通候ニ付。御當地非人ノ仕候例。御座候間。右ノ儀。日柄相立。手鎖差許候後。前書之通。御當地ノ非人手下。可申付之。被存候。依之。乍恐。以書付奉申上候。以上。

淺草  
彈左衛門印

是ハ寶曆八卯年十二月。東海道品川宿。及不法候。修驗延壽院一件。引合。呼出。相成。

安藤彈正少弼。掛落着之上。彈左衛門差出候書付之通。聞濟相成候事。

○御仕置類例集云。明和八卯年。川越無宿權助。事馬次郎儀。非人小屋欠落。無宿。成所。人立場。腰錢。袂錢。拔取。又。町屋廊先。度々錢盜取。其外本所六口邊。在方。買物。出候程。者へ突當。口論。度々錢。を奪ひ取候段。重々不届。至極。二付。獄門。

○明和八卯年。伊勢無宿松之助儀。六年以前。子年。盗。依科。穢多。彈左衛門手下。成。非人。



小屋に入候處致欠落無宿小成所々人立場へ  
出町人百姓躰の者此腰錢杖錢拔取或ハ町人  
躰の者此巾着内ニ四文錢有之を切取其外者  
賣荷籠の内錢盜取町屋見世先に有之雪駄度  
々盜取候段不届ニ付敲可相伺処非人の儀ニ  
付敲相當の仕置可申付旨申渡穢多彈左衛門  
へ引渡

○安永四未年一橋領知甲州巨摩郡宇津谷村穢  
多常七儀和助任頼穢多の為身分百姓家へ罷  
越茶碗等を投和助申合國都をたゞ一候存念

みて色々雑談を申不届ニ付重敲相當の仕置  
申付候様申渡穢多頭牢番へ相渡

○安永七戌年甲州山梨郡鹽山向嶽寺抱非人頭  
幸七儀手下佯左衛門祖鎖へ貸遣候布子草物  
被盜取候分ニ為致置儀兵衛方へ手下共召連  
罷越候節要右衛門罷越候處難決申掛茂次兵  
衛に十手あて為致打擲五郎左衛門侘ニ罷越  
候處是又難決申掛右兩人ノ押了誤證文取  
之其上五郎左衛門方へ手下共大勢差遣其  
外村々あて手下共不法之儀を其分小い



置頭取申分里同様の仕方。非人頭の身分にて。重々不届二付。死罪。

○安永七戌年。辻六郎左衛門御代官所。播州加東郡。浮坂皮多庄屋庄左衛門。年寄作左衛門共儀。前より御觸も有之上。右体の儀無之様。兼て村方の者共へ。急度可申渡置候處。不行届取計仕。并ニ市次郎申聞候い。様子篤々相糺。十次郎を引取置。吟味為相願。可申候處。心得違ひとい。乍申。市次郎任申。嵩高の願書に。奥印い。為相願候段。不埒より御座候間。叱り置可申哉の旨。

可奉伺ものに奉存候得共。穢多の身分に御座候間。當表穢多村年寄へ引渡。相當の仕置。可申付旨申渡。

○寛政六寅年。當時無宿松五郎儀。入墨相當に相成。或ハ彈左衛門方にて申渡候構場所へ立入。上野山下に。銀入候鼻紙袋。又ハ往來の女。差居候銀らんさ。一拔取。右品賣拂。或ハ侍体のその。懐中の鼻紙袋。拔取候砌。手疵を負。氣絶い。多し候節。鼻紙袋ハ被取戻。其外所々。人立場にて。腰錢。杖錢。拔取候分。都合南鐐銀一片。錢三貫文程。



途中の盗い。前書賣拂候代錢等も不殘酒  
食に遣捨候段。不届に付。死罪。

○寛政六寅年。内野小屋頭平藏死跡下小屋に居  
候勘太儀。足打源四郎事源兵衛任頼。同人方へ。  
押て金錢無心。申参了候を此。挨拶い多し。右に  
付。禮金等貰受候儀ハ。無之旨申之候得共。小屋  
頭下小屋に。罷在候身分もて。右躰の儀取扱候  
段。不届ニ付。相當の咎。可申付旨申渡。穢多頭へ  
引渡。

○寛政七卯年。穢多頭彈左衛門支配。長吏小頭。市  
左衛門手下。武州荏原郡等々力村非人小屋頭  
市兵衛儀。富右衛門ハ。元定七抱非人の節。小屋  
欠落いたし候者に。有之候處。其儀ハ。不存候と  
し。得と身元を不相糺。抱非人にいし置。其上  
居小屋物置所もて。右富右衛門。其外他所の者  
相集り。俱々手合に加り。廻り筒もて。墓博奕数  
度い多し。たら錢貰受候段。不届ニ付。遠島。

○寛政八辰年。清水殿領知甲州巨摩郡若神子村。  
穢多組頭所左衛門儀。往古より牢番支配に罷  
在候處。仲々間一同。近年困窮ニ付。彈左衛門手



下に相成候ハ、高賣もいゝ能可相成と存  
市部村作右衛門上手村常四郎惣代と相頼追  
々頭願為致候處願之趣不相立候ニ付元牢番  
佐藤甚藏不正之取計有之趣相手取為願根岸  
肥前守みて吟味の上相分弥支配離いゝ候  
旨牢番加番之儀ハ五十年來勤来候故無給に  
て難儀の儀ハ其筋へ相願候様申渡有之趣作  
右衛門常四郎申聞候とモ裁許請證文寫みせ  
無之儀得と承紀可申處無其儀猶又彈左衛門  
手下に相成度旨并に仲ヶ間中にて假し頭取

立度願作右衛門常四郎任申願書為差出牢番  
支配少てハ無之と心得加番差免願之致相談  
不調候迎仲ヶ間分れいゝ我終り五ヶ村申  
合組下困窮なて牢番方へ加番人足難差出旨  
申立置差免も可有之と推量を以仲ヶ間并に  
組下へも申聞置牢番より加番人足觸當候處  
人足不差出申付を背支配牢番を蔑にいゝ  
其上往古より相勤候加番人足を寛保年中牢  
番より被頼勤来候と取拵手當相願候段不埒  
至極ニ付五十日手鎖



寛政九己年。高木作右衛門。御代官所。肥前國彼  
杵郡。浦上村。非人溜番世話役庄七。外一人共儀。  
溜番世話役いゝ候上ハ。溜番共へ。稽々入念  
候様。可申付處。太七當番之節。持越間敷。又物持  
越。既ハ無宿共。右又物を盗溜を破候儀。一向不  
心付。其後岩平番之節ハ。右場所ハ。無宿紋左  
衛門。紋五郎。抜出逃去候を不存。畢竟平日溜  
番共へ申付方。不行届。不念の至ニ付。急度叱。

御仕置例書云。寛政九己年十月。江戸元鯨ヶ橋  
北町。庄三郎店。清吉事吉五郎儀。先達而相對死  
仕損候依不届。晒の上非人手下品。相成候處。御  
仕置を不相用。小屋致欠落。町方ハ店持。平人に  
相成罷在候始末。不届ニ付。江戸拂。可申付處。非  
人の儀ニ付。相當之仕置。可申付旨申渡。穢多頭  
彈左衛門へ引渡。

御仕置類例集云。寛政十午年。勢州飯高郡。松坂  
裏町。番非人頭久五郎儀。權助任相頼。内分母て。  
所役人へ相届。盗物の品。并賣拂代金。取返遣  
候段。不埒ニ付。叱リ。

寛政十一未年。攝州西成郡。下新庄村。百姓幸七



女房きち儀。穢多の身分也。百姓幸七と致密  
通。其後女房に相成。且穢多共奉公世話。幸七へ  
相頼候。多人數引受。百姓町家等へ奉公に  
出候。仕儀に相成。旁不埒に付。五十日手鎖可申  
付處。穢多の儀に付。當村穢多村年寄へ引渡。相  
當の答申付。

寛政十二申年。川崎平右衛門御代官所。甲州八  
代郡岡村山番非人六兵衛儀。背御法度廻り筒  
箆博奕致し。其上自分小屋に於て。廻筒箆博奕  
仕。坐料も無之候得共。為茶代錢二百文貫受

候段。不届に付。中追放可申付候得共。非人之儀  
に付。穢多頭へ相渡可申處。當地に穢多頭無御  
坐候間。元頭非人六左衛門へ相渡。相當の仕置  
可申付旨申渡。







